



# 楽々亭通信

第19号  
令和4年3月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

## 2月の楽々亭を

### 開催いたしました

本願寺派布教使

安堂芳雅

◆「亡き人の身を思う人は多いけれど、亡き人の心に気付く人は少ない」

ちょうど一年前の三月一日号に、「お仏壇の嫁入り」の事を書きました。私の同級生の実家にあったお仏壇を、別のご家族が迎えられたお話です。

先日、そのお父さん（六十九歳）のお葬儀を勤めました。

ご往生の知らせを受けて、お仏壇を引き取りにこられた時のことを懐かしく思い起こしております。軽トラにのったお仏壇を背景に、眼鏡にニ



ット帽という若々しいでたのお父さんの、本当に嬉しそうなピースサインの写真があります。

その際、「お仏壇に手を合わす姿を子や孫に遺していききたい。」と話されました。きっと子供の頃見た「お仏壇のある風景」を思い出しておられたのでしょう。

また、こんなお話もしました。

夫婦、親子、兄弟という「家族」は、真向かう関係だから、良いとこだけでなく自分の思いと違うところがはつきり見える。そのうえお互いに、「言わんでもわかるやろ」という甘えがある。  
確かに、人間同士が向き

合つてうまくやつていけるのは、本当に短い時間ですから、向き合つて生活していく「家族」という人間関係は、やつかないものです。

だからこそ、家族が並んで、家のお仏壇にむかつて手を合わす、同じ方向を向く時間をもちたい。

ともに、「同じ仏さまのお慈悲の中にある、慶びと安心を分かち合う日暮らし」をしないと、願っておられませんでした。

このご縁にあつて、恩師から聞いた言葉を思い起こしました。

「亡き人の身を思う人は多いけれど、亡き人の心に気付く人は少ない」

よく「亡くなった人を偲ぶ」といいますが、それは懐かしい気持ちで思い出す、「懐かしむ」ことだけではないように思います。

残された者がそれぞれ、亡くなった人の心を訪ねていくことが、本当に「偲ぶ」ということだと私は思います。

そしてまた、あの人（故人）は「いったい何を指し、何を大事にして、そして何を私に遺そうとしたのか。」と、ひとりひとりが亡くなった人の心に気付いていくことが大切なことで、その為の時間が通夜、葬儀といったお仏事です。

そして、「亡き人の身を思う人は多いけれども」

「あの人はへんなどこにいつてるのではないか。」なんていう、心配は無用です。

お経には、「すべてのいのちを、さとりのお仏にす」とあります。

草葉の陰や、真暗な冥土で迷い続けるいのちはありません。  
それこそ、仏さまになられ

た方々から、「私の身の心配より、あなたはそれで大丈夫ですか？」と、問いかけられているのです。

● 仏にそなわる三十二の特徴

仏像や仏画を見ると、お姿がよく似ていることに気づかれると思います。というのも、仏さまのお姿には三十二の特徴があり、それらが釈迦如来、阿彌陀如来、薬師如来などの仏像に取り入れられているからです。

この三十二の特徴を知っておくと、仏像や仏画の共通点や違いが判って、面白いかも知れません。

さて、今回は、「正立手摩膝相」（しょうりゆうしゅまじつそう）です。

正立、つまり直立した時に、手の先が膝に触れるほど仏さまの腕は長いのです。

特に浄土真宗のご本尊、阿弥陀如来は左手を真下に垂らしておいでなので、この特徴がよくわかります。

さつそく調べてみると、確かにどの阿弥陀如来像も左手指先は膝の下あたりまでであったのですが、中には、無理やり指先を膝下まで垂らそうと極端に足の短い仏さまもおられて、笑ってしまいました。

この長い腕のメッセージは、「どんなところにも 至りどくはたらき」です。

たとえ私たちがどんなに遠ざかろうとしても、仏さまは追いつき、この長い腕で包み抱きとってくださいます。どこに隠れても、そこは仏さまの腕の中なのです。



### 松竹のプロデューサーとして

その11

段々と世の中不景気になり映画界にも不況が襲ってききました。日活だけが裕次郎の人気で盛んでしたが、他の会社は世間と同じように不景気が襲ってききました。

我社もあらゆる方面の経費を節減するようにお達しがありました。

当時私は映画部、ビデオ部、俳優部、芸文室など映画ビデオに関する一切を担当しておりましたので、もろに節減の波をかぶりました。大正時代より続いております。中止してはどうかという話が役員会に出ました。いっせいに私のほうに目が向いてきましたので、暫く沈黙が続きました。10分程たって私が「分かりました、来年一月十日の謝恩会を最後に中止したいと思えます。ラストを盛大に飾りたいとおもいますが？」と提案しました。会長より「最後にふさわしいパ

ーティーにしてください」と注文がありました。

日常の仕事は部長に任せて私は休暇をもらい、計画を練り、役員会で説明を聞きました。

そして先ず、招待客の面々が発表された結果、政府の内閣全員、そして一部上場の社長、専務全員、各社有名な俳優等、全部で2500名という事で決まったようでした。

役員会で計画を説明した結果、全役員が賛成しました。

内容は先ず、松竹の関係ある俳優全員を動員する。そして京都南座と深い関係のある祇園町の芸姑を動員して出席させる。歌舞伎の團十郎を始め、全員に表で立礼させる。楽団は当時有名なシャープアンドフラット等短期間で決めていきました。

1月に入り正月より京都と東京を往復数回し、自宅に帰ることもなく、帰京すると直ちに会長、社長に内容を説明して賛同をもらい、役員会で説明しましたところ、全役員が拍手をもって賛成してくれました。そして、車やテレビなど賞品を

運び込み、会場の設営、全部仕上がったのが1月9日夜11時でした。一覽しまして、完璧な会場ができあがりしました。自宅に帰ってホッとして寝ましたのが午前1時ごろでした。成功の夢をみて・・・。

櫻井洋三



**楽々亭第18回 3月の予定**  
3月23日(水)  
西京区役所洛西支所会議室  
午前10時～12時  
2月に開催した場所です。  
表玄関口から入って下さ

### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都  
住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701  
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328  
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。